

延喜式内社

弓削神社御由緒略記



鎮座地 大阪府八尾市弓削町 1 丁目 36 番地

J R 大和路線志紀駅から南西約 150m 徒歩 3 分

社域 400 坪

氏地 八尾市弓削町、志紀町

御 由 来

当社は今を去る千有余年前に物部氏がこの地に繁栄してその祖神を祀り創建せられ、延喜式内の古社として上下の尊崇あつく、特に延命長寿の神として名高い。

大阪府神社資料弓削神社の條の河内誌、大阪府全誌、大阪府蹟名所天然記念物によると清和天皇貞観元年正月授從五位上とあり、又同上河内誌、大阪府全誌、大阪府蹟名所天然記念物によると醍醐天皇の延喜の制に於て延喜式内社に列し、並大月並、相嘗、新嘗に予り朝廷から幣帛を共進せられていた。

その後世の変遷時の流れに従い消長があつたが、明治五年村社となり、大正三年幣帛共進社に指定せられ、八尾市二俣に鎮座の天照大神を合祀し、昭和二十七年宗教法人弓削神社をして神社庁に属している。境内には昔から延命の水と言う冷泉があり、この水を口にすれば長命すると言ひ伝えられている。



祭 神

にぎはやびのみこと
饒速日命

うましまじのみこと
可美麻治命

あまてらすおおかみ
天照大神

天照大神は我が国の始祖と仰がれ給い、紀伊国五十鈴の川上に鎮座し給う。饒速日命は天神で天璽を奉じて天磐舟に乗りこの国に降り給う。可美麻治命は饒速日命の御子である。饒速日命は神武天皇御東征前に既に大和河内地方を治めて御東征に偉勲をたて、御子可美麻治命と共に朝廷に仕えて功績をたて、その功績により子孫に物部氏の姓を賜り、この地方一帯に勢力を張り、守屋の頃には富強をきわめた。一族弓削氏はこの地に栄えて祖神を尊崇して祀ったのが当神社である。弓削の道鏡はこの弓削の一族である。御祭神については大阪府神社史料弓削神社の條河内誌に「比古佐白布都命」大阪府全誌に「一に布都大明神」とも呼び、大阪府市蹟名所天然記念物の渡会氏神名帳考証に「弥加布都命、比古佐白布都命」特撰神名牒には「高魂命、天日鷲命」とあり神社要録、大日本史神祇志、地理志科等には「弓削宿祢神か或は弓削祢祖廟也」とあつて諸説があるが、弓削宿祢は物部連の族であるから物部氏の祖神である饒速日命可美麻治命を御祭神として奉斎し、二俣に鎮座の天照大神を合祀して三柱を御祭神と奉斎申しあげている。



建造物

本殿、拝殿、神楽殿、宝物殿、神輿太鼓庫、明治天皇遥拝所、菅原神社、琴平神社、稻荷神社、猿田彦神社、社務所、鳥居、狛犬、水舎、由来碑、社標、延明水



本殿



拝殿



御神楽殿



宝物殿



社務所



延明水



明治天皇遥拝所



遷宮祭 (正遷宮)

二十五年目毎に行う。神殿、建築物の修理、境内の設備を行い、
神殿のよそほいを新たににして霊代を遷し奉り、全氏子を挙げて一
大行事を行い、神滅を発揚げすると共に、日夜賜る恩頼を感謝し
て繁栄を寿げ、砂持神事を始め種々の記念行事を行う。
次回は、平成三十二年

御 祭 礼

一月一日	歳旦祭
二月十七日	祈年祭
七月最終土・日	夏祭(神輿渡御式)
十月八、九日	秋祭(例祭)
十一月二十三日	新穀感謝祭
その他	
一月十四日	左義長とんど
二月三日	節分の日・節分祭
四月午の日	稻荷祭
十一月十五日	七五三詣り



弓 削 神 社 氏 子 会

平成19年7月1日